

---

**今、語ろう。**

ハルメク

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
今、語ろう。

【Nコード】  
N1423A

【作者名】  
ハルメク

【あらすじ】  
露悪信仰者。それは僕の標準な生活の中にはっこしていた

語る - - - a

語ろう。僕のことを。

僕はどうすればいいのだろう。

気づいてしまった。

あることに。

もしかしたらそれはただの思い過ごしかもしれない。でもそうじゃないかもしれない。

僕は学校生活をしていると必然に思うのだ。

「学校は露悪と階級化の入り混じった所」  
だと。

よくわかる。

だってそうじゃないか。

オシャレだからといって茶髪にしたり（規定のある学校生活で）、ピアスしたり、制服を着崩してみたりなんやらかんやら。

「オレ、アタシは悪いやつなんだ不良なんだどうだカッコいいだろ  
お。」

みたいな感じなんだ。

「悪い」

イクオール

「カッコいい」

になっている現代の中学、高校、オトナの露悪信仰者たち。

別に茶髪にしたりピアスをしたりが悪いというわけじゃない。

そういったことをやるに伴って、自分より下とか劣っていると思う人に対する態度が粗悪になるんだ。

それに露悪信仰者はレベルが上がっていくと老若男女、甲乙丙、人間の位置関係なく人に対して

「悪」

を主張、実行していく。

もうこれは連載にしてみました

う。僕のこととは後々語っていいっつ。

語る - - - b

露悪信仰者。今、僕の周りの世界に蔓延っている狂信者。

「悪」

「不良」

はカッコいいのか？ カッコいいんだ！ と思つて

「悪」

を実行するやつらがたくさんいる。弱いものをイジメ、目上のも  
のを戒め、

「オレのものはオレのもの、お前のものはオレのもの」  
を良しとするやつら。

いいんだろうか？ 彼ら彼女たちの

「悪」

はただ人を困らせ、自分に陶醉するだけのものなんじゃないかな。

「悪」

を信仰する理由。

「不良」

になる理由。それは、

「悪」

「不良」

がカッコいいからだけじゃなく生活環境が影響していると何かの本  
で読んだことがある。

例えば、母がいない、父がいない、両親がいないといった理由で非  
行や不良になる率が高いと書いてあった。

たぶん、それもあるのだろうけどまた違う理由も考えられると思う。

中学、高校の少女たちは思春期だからということも結構なファクターになってると思う。

保健の教科書で読んだのだけれどこの頃は身体的にも精神的にも敏感なお年頃らしく、たぶん何かに影響されやすい時期なのではないだろうか。

そこで、国民的に有名なモノが絡んでくる。

TV。テレビは影響されやすい時期の少女少女の心に巧みにそして容易くその触手を伸ばしてくる。

---

語る・・・に続く。

ゴメンナサイ

語る・・・c（前書き）

この作品はフィクションです。実在の人物・団体・事件などには、  
いっさい関係ないと思います。

語る - - - c

「今、語ろう」

というタイトルはどうかと思ったけれど僕のことや世の中のことを書くのだからこれだけ相応しいタイトルはないだろうと思う。

この連載を始めてから幾日たっただろう。幾人に想いが伝わったのだろう。露悪信仰者は僕の生活を着実に侵し始めている。もう僕の部分が幾ら残っているのだろう。もう自分は貪られて現存してないのかもしれない。稀薄すぎる。

狂狂狂って

いく。くるくると狂っていく。

僕がこのサイトを見つけ、毎日露悪信仰者について語ってきた、この幾日か。何も代わらない何も変わらない、ただ狂狂々と僕が狂っていくだけ。良いようにされ続け、貪られて、存在を殺されていくだけ。何が起これば、良いのか？ どうすれば良いのか？ 答えは解っているのかもしれない。 - - - 文字だけではダメなんだろうか？

これでこの

「今、語ろう」

を終えようと思う。御清読有難う御座いました。あなたに僕の想いが伝われば何よりです。

(了)

- - - パタンと僕はノートパソコンを閉じた。

椅子にもたれ、ふうと息をつく。そして明日のことを考える。自嘲、狂乱、後悔、憤怒、寂寥。明日は僕のタ・ニングポイントになる。

やはり、文字や文章だけじゃ駄目なのだ。行動を起こさねば。

通学鞆に明日必要なモノを入れ、眠りについた。僕の頬は心なしか笑みに歪んでいた。



さあ露悪信仰者どもの血を見てやろう。

僕は真つ赤な血のような夢を見た。

語る . . . c (後書き)

What to do next?

## 後の事を語る - - a f t e r   s t o r y - -

後の事を語ろうと思う。

僕はあの日学校に鈍器のような物を持って登校した。憎い生徒を撲殺しようと考えていたのはあの文章からでも御推察できるだろう。しかし当日、僕の良心がそれを止めた。よって未遂に終わっている。なので僕の本名である上杉浪輔という漢字の連なりを新聞等で探しても無駄であることをここに書き添えておく。

僕は受験生になった。国立K大学を志望校に定め、勉強に励んでいる今日この頃である。露悪信仰者にかまっている暇などなく、やつらが僕をどうにかしようとして近づいて来、何かされようとも殺意を抑え耐えるようにしている。

僕は研究者になるつもりだ。その為には大学を卒業し、大学院に入らねばならない。

多忙である。忙しさは悩みを消してくれる。僕は今多忙である。

前のように狂うことはないだろう。狂うとすれば大学に>>ここで使おうとしている言葉は不吉だから使わない<<ただけだろう。>>ここで使おうとしている言葉は不吉だから使わない<<ない為に今勉強しているのだし、>>ここで使おうとしている言葉は不吉だから使わない<<ない為に勉強しているからこそ、僕は多忙なのだから。

これが僕の現状である。悲観的に見れば妄想の目的を立てて逃避

する哀れな高校生だろう。楽観的に見ればただの受験生だ。

僕は大学に>>ここで使おうとしている言葉は不吉だから使わない<<することに恐怖を抱き勉強をしている。仮想の目的に向かい、仮想の敵と戦い、仮想の世界へ向かおうとしている。

物語る資格を、僕はこれにて放棄する。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1423a/>

---

今、語ろう。

2011年1月26日16時42分発行